

高津区区民生活に関わるニーズ調査 概要版



調査の概要

- 調査目的 高津区が行う事業について、区民ニーズを的確に把握し、効率的・効果的に実施するため、「区民がどのような施策・事業を行ってほしいと思っているのか」、「高津区役所で実施している施策・事業がどの程度認知・評価されているのか」等についてアンケート調査を実施する。
- 調査地域 川崎市高津区全域
- 調査対象 川崎市高津区在住の満18歳以上の男女個人（外国人含む）
- 標本数 2,000
- 抽出方法 平成28年8月末現在の住民基本台帳から層化二段無作為抽出
- 調査方法 郵送配布・郵送回収法
- 調査期間 平成28年10月1日～11月30日
- 調査委託機関 株式会社エスピー研
- 回収結果 有効回収数1,109（有効回収率 55.5%）
- 概要版の見方 この概要版の図中のnとは、設問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す。回答の比率（%）はnを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位までを示した。従って、それぞれの回答の比率を足し上げた値とは異なる場合がある。



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市



高津区

川崎市高津区役所企画課

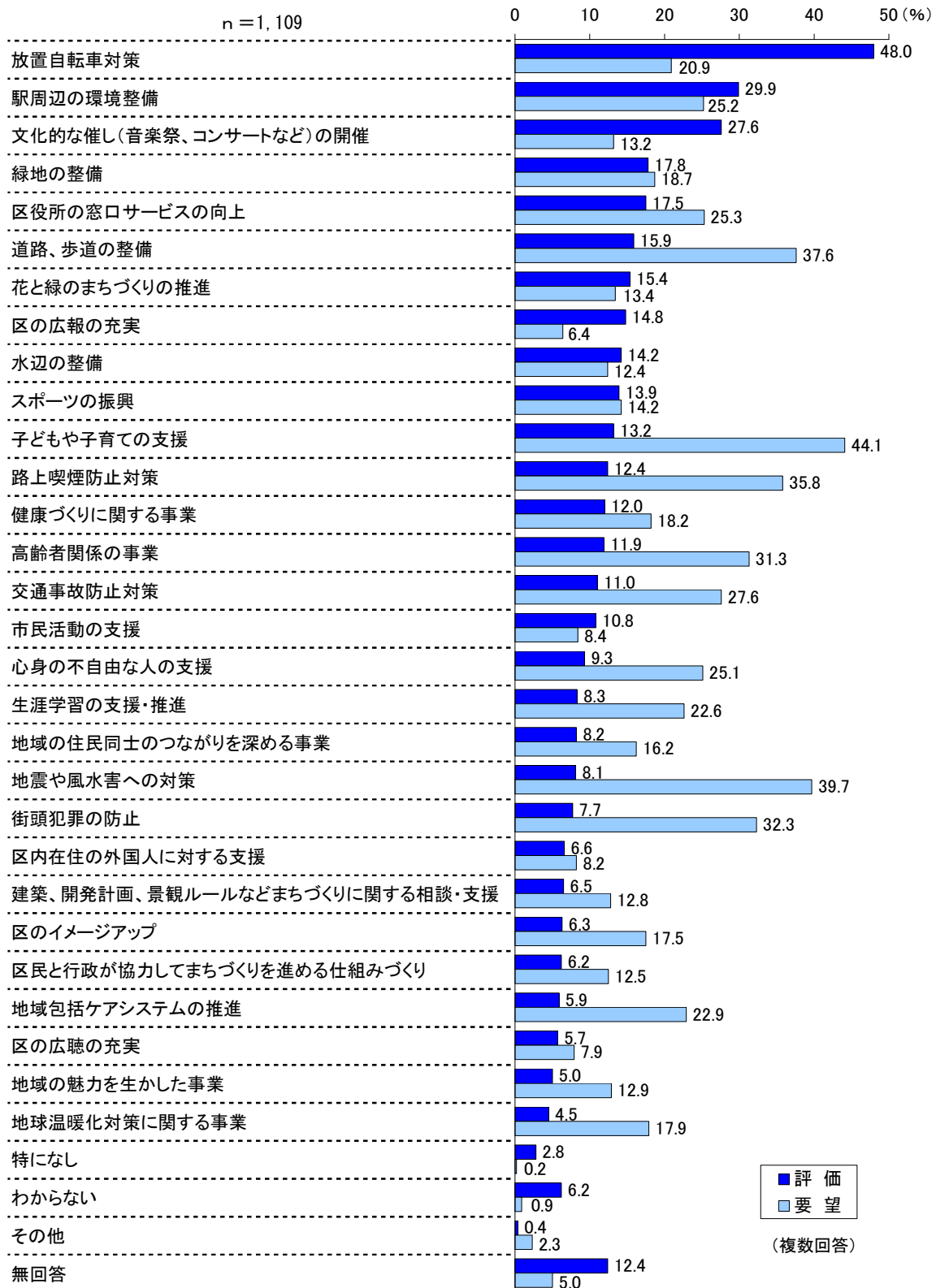
〒213-8570 川崎市高津区下作延2-8-1

TEL 044-861-3131

区の施策について

区役所業務の評価と要望

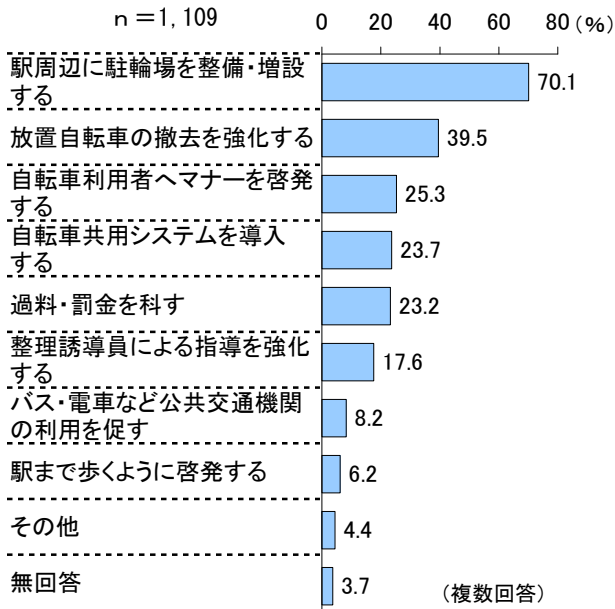
評価をみると、「放置自転車対策」(48.0%)が5割近くで最も高く、次いで「駅周辺の環境整備」(29.9%)、「文化的な催し(音楽祭、コンサートなど)の開催」(27.6%)、「緑地の整備」(17.8%)となっている。
 要望をみると、「子どもや子育ての支援」(44.1%)が4割半ばで最も高く、次いで「地震や風水害への対策」(39.7%)、「道路、歩道の整備」(37.6%)、「路上喫煙防止対策」(35.8%)となっている。



区の施策の手法

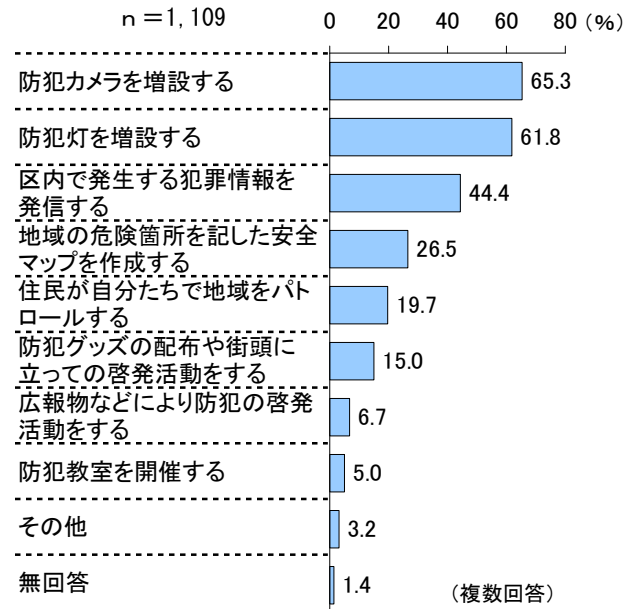
放置自転車対策

「駅周辺に駐輪場を整備・増設する」(70.1%)が7割で最も高く、次いで「放置自転車の撤去を強化する」(39.5%)、「自転車利用者へマナーを啓発する」(25.3%)、「自転車共用システムを導入する」(23.7%)となっている。



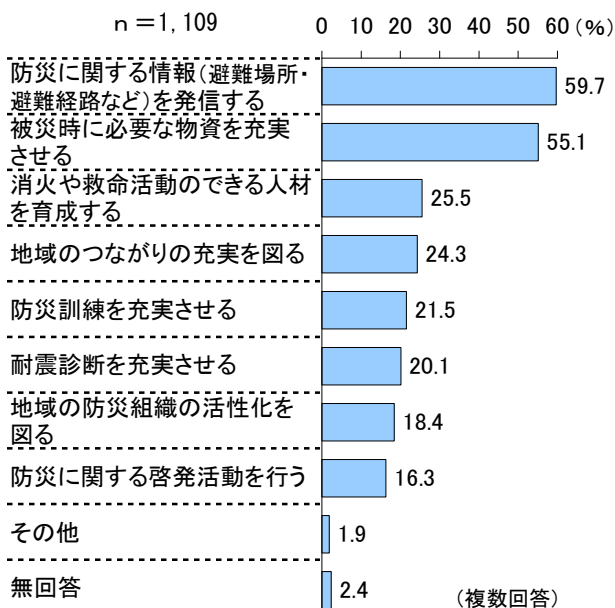
街頭犯罪防止対策

「防犯カメラを増設する」(65.3%)が6割半ばで最も高く、次いで「防犯灯を増設する」(61.8%)、「区内で発生する犯罪情報を発信する」(44.4%)、「地域の危険箇所を記した安全マップを作成する」(26.5%)となっている。



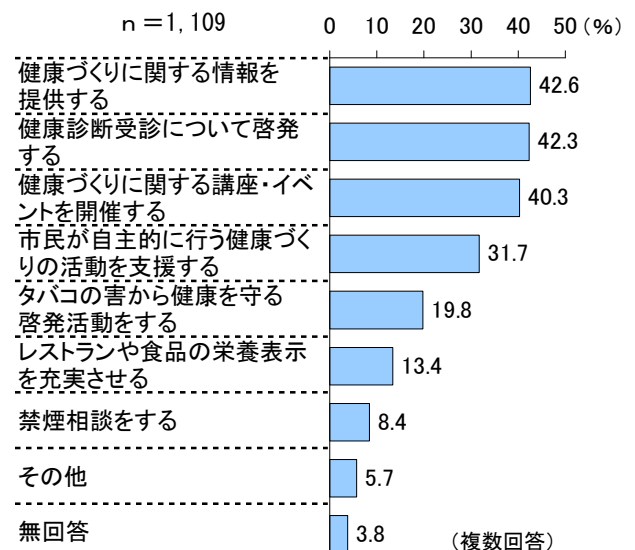
地震や風水害対策

「防災に関する情報(避難場所・避難経路など)を発信する」(59.7%)が約6割で最も高く、次いで「被災時に必要な物資を充実させる」(55.1%)、「消火や救命活動のできる人材を育成する」(25.5%)、「地域のつながりの充実を図る」(24.3%)となっている。



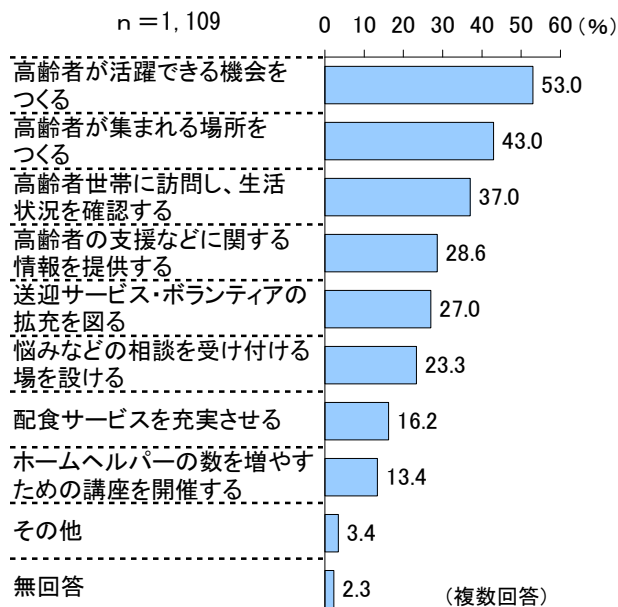
健康推進

「健康づくりに関する情報を提供する」(42.6%)が4割を超えて最も高く、次いで「健康診断受診について啓発する」(42.3%)、「健康づくりに関する講座・イベントを開催する」(40.3%)、「市民が自主的に行う健康づくりの活動を支援する」(31.7%)となっている。



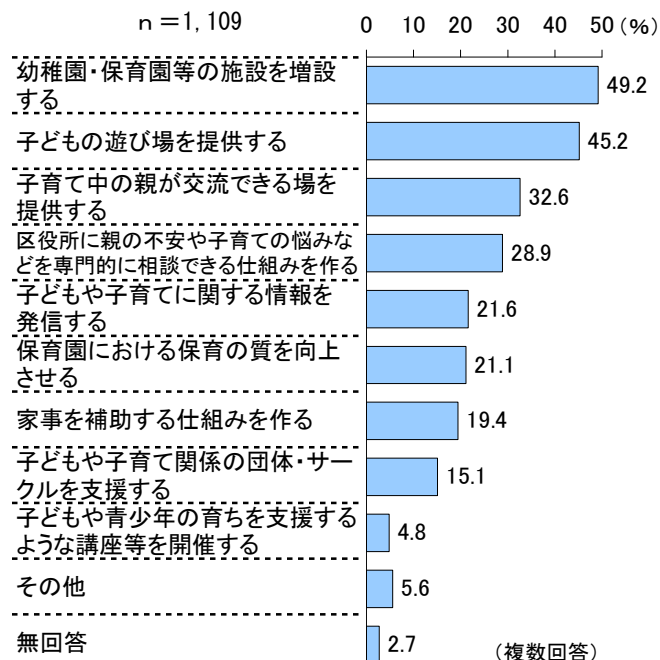
高齢者支援

「高齢者が活躍できる機会をつくる」(53.0%)が5割を超えて最も高く、次いで「高齢者が集まれる場所をつくる」(43.0%)、「高齢者世帯に訪問し、生活状況を確認する」(37.0%)、「高齢者の支援などに関する情報を提供する」(28.6%)となっている。



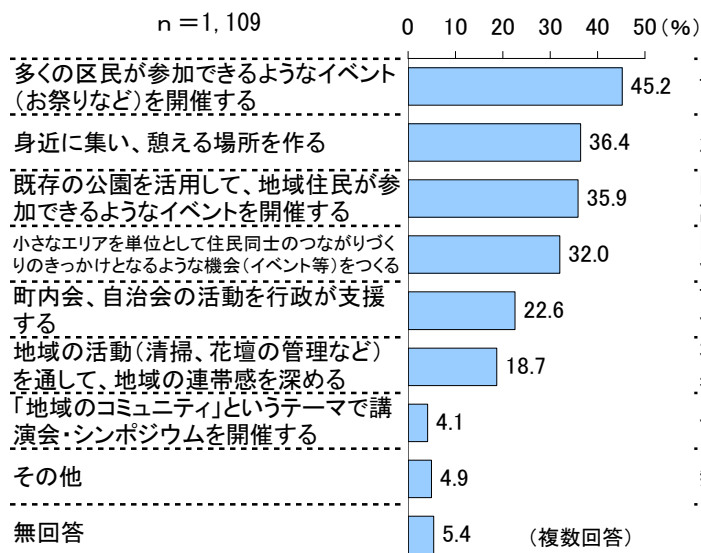
子育て支援

「幼稚園・保育園等の施設を増設する」(49.2%)が約5割で最も高く、次いで「子どもの遊び場を提供する」(45.2%)、「子育て中の親が交流できる場を提供する」(32.6%)、「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る」(28.9%)となっている。



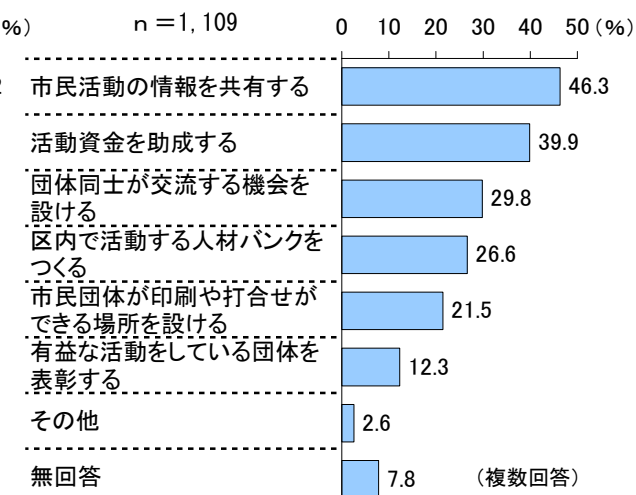
地域住民のつながりを深める手法

「多くの区民が参加できるようなイベント(お祭りなど)を開催する」(45.2%)が4割半ばで最も高く、次いで「身近に集い、憩える場所を作る」(36.4%)、「既存の公園を活用して、地域住民が参加できるようなイベントを開催する」(35.9%)、「小さなエリアを単位として住民同士のつながりづくりのきっかけとなるような機会(イベント等)をつくる」(32.0%)となっている。



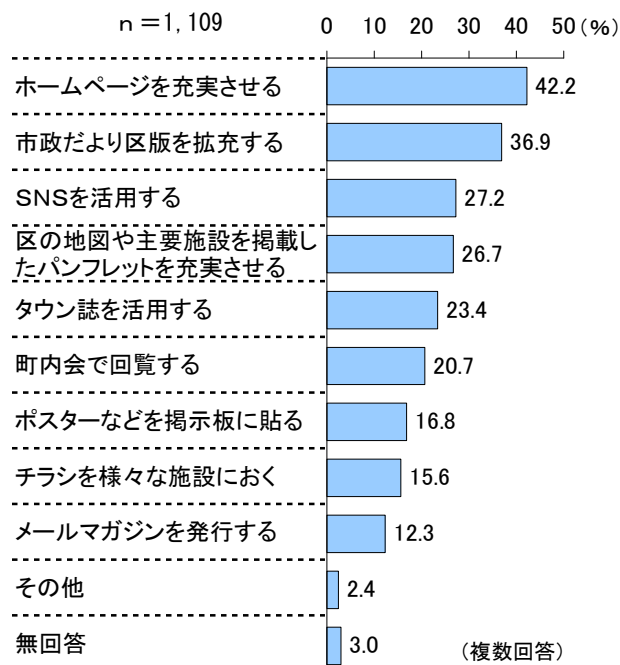
市民活動支援

「市民活動の情報を共有する」(46.3%)が4割半ばで最も高く、次いで「活動資金を助成する」(39.9%)、「団体同士が交流する機会を設ける」(29.8%)、「区内で活動する人材バンクをつくる」(26.6%)となっている。



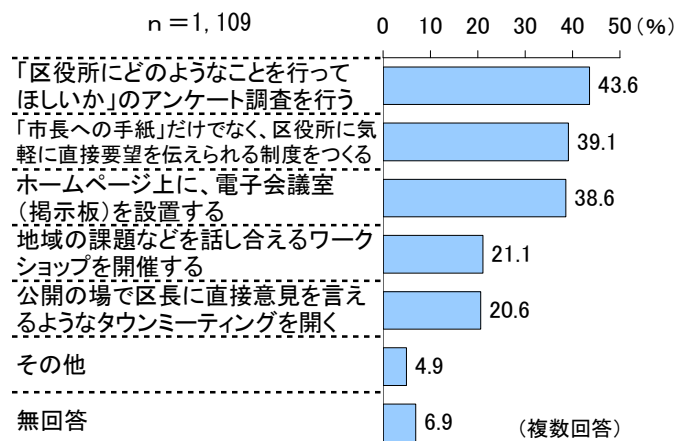
区の情報提供

「ホームページを充実させる」(42.2%)が4割を超えて最も高く、次いで「市政だより区版を拡充する」(36.9%)、「SNSを活用する」(27.2%)、「区の地図や主要施設を掲載したパンフレットを充実させる」(26.7%)となっている。



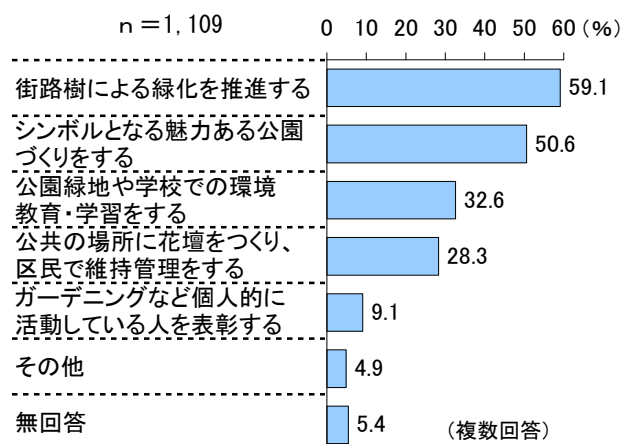
区民の要望収集

「『区役所にどのようなことを行ってほしいか』のアンケート調査を行う」(43.6%)が4割を超えて最も高く、次いで「『市長への手紙』だけでなく、区役所に気軽に直接要望を伝えられる制度をつくる」(39.1%)、「ホームページ上に、電子会議室(掲示板)を設置する」(38.6%)、「地域の課題などを話し合えるワークショップを開催する」(21.1%)となっている。



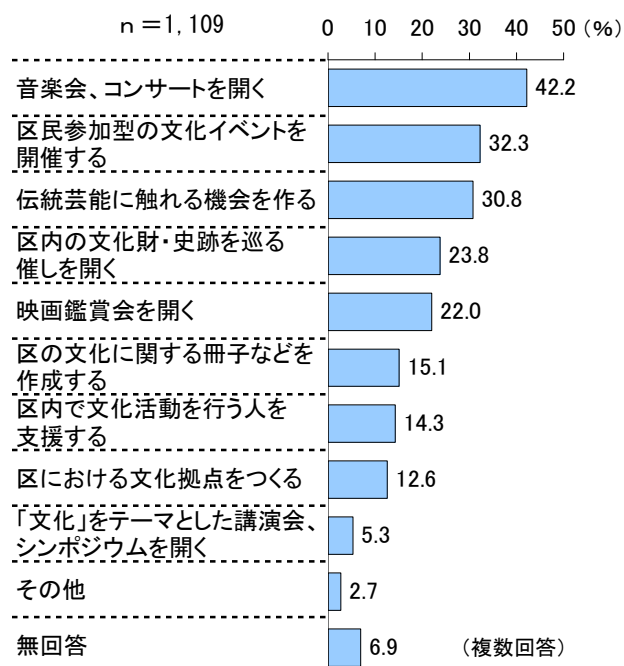
花と緑のまちづくり推進

「街路樹による緑化を推進する」(59.1%)が約6割で最も高く、次いで「シンボルとなる魅力ある公園づくりをする」(50.6%)、「公園緑地や学校での環境教育・学習をする」(32.6%)、「公共の場所に花壇をつくり、区民で維持管理をする」(28.3%)となっている。



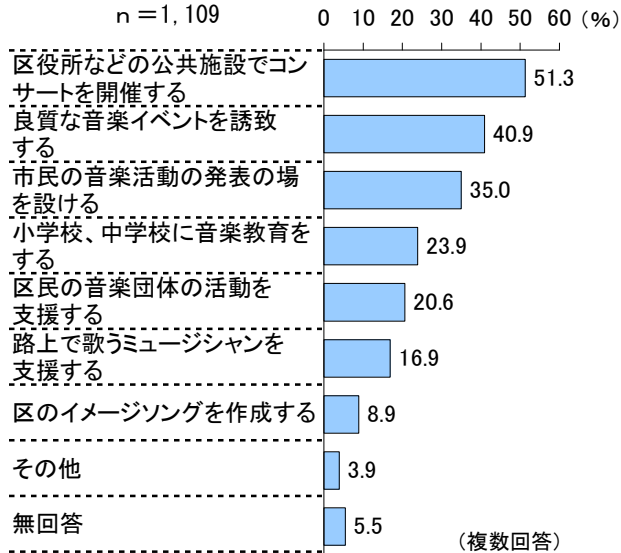
区の文化の振興

「音楽会、コンサートを開く」(42.2%)が4割を超えて最も高く、次いで「区民参加型の文化イベントを開催する」(32.3%)、「伝統芸能に触れる機会を作る」(30.8%)、「区内の文化財・史跡を巡る催しを開く」(23.8%)となっている。



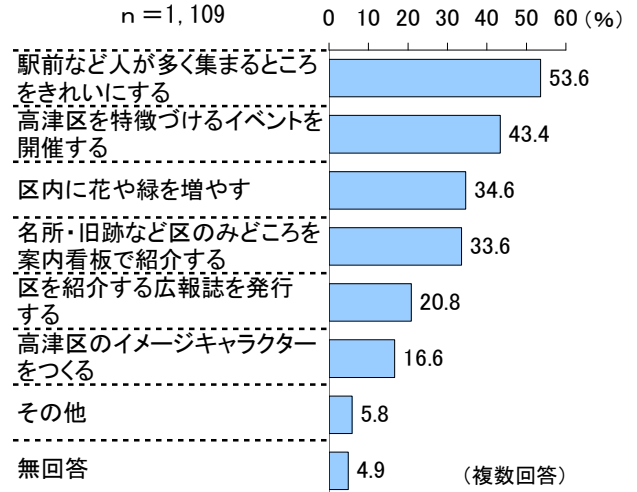
「音楽のまち」推進

「区役所などの公共施設でコンサートを開催する」(51.3%)が5割を超えて最も高く、次いで「良質な音楽イベントを誘致する」(40.9%)、「市民の音楽活動の発表の場を設ける」(35.0%)、「小学校、中学校に音楽教育をする」(23.9%)となっている。



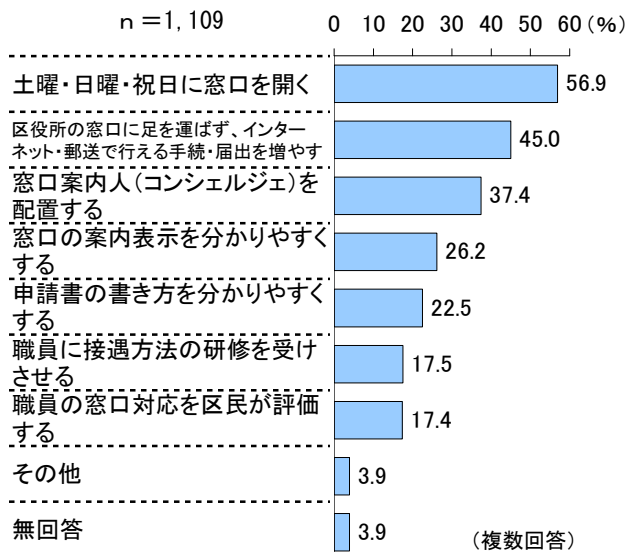
区のイメージアップ

「駅前など人が多く集まるところをきれいにする」(53.6%)が5割を超えて最も高く、次いで「高津区を特徴づけるイベントを開催する」(43.4%)、「区内に花や緑を増やす」(34.6%)、「名所・旧跡など区のみどころを案内看板で紹介する」(33.6%)となっている。



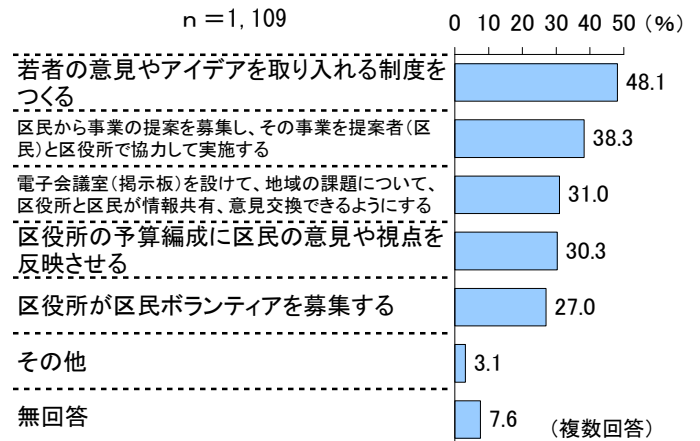
区役所の窓口サービス向上

「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」(56.9%)が6割近くで最も高く、次いで「区役所の窓口足運ばず、インターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」(45.0%)、「窓口案内人(コンシェルジュ)を配置する」(37.4%)、「窓口の案内表示を分かりやすくする」(26.2%)となっている。



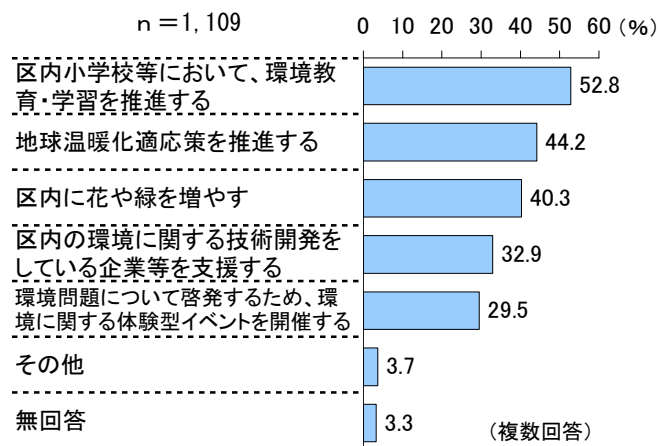
区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組み

「若者の意見やアイデアを取り入れる制度をつくる」(48.1%)が5割近くで最も高く、次いで「区民から事業の提案を募集し、その事業を提案者(区民)と区役所で協力して実施する」(38.3%)、「電子会議室(掲示板)を設けて、地域の課題について、区役所と区民が情報共有、意見交換できるようにする」(31.0%)、「区役所の予算編成に区民の意見や視点を反映させる」(30.3%)となっている。



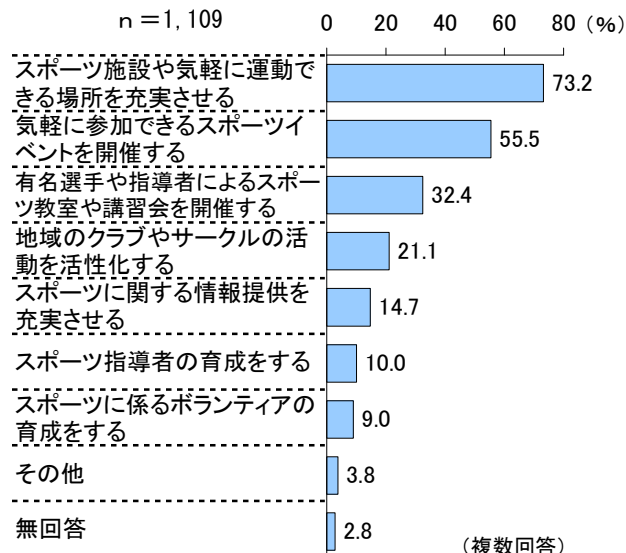
地域の地球温暖化対策

「区内小学校等において、環境教育・学習を推進する」(52.8%)が5割を超えて最も高く、次いで「地球温暖化適応策を推進する」(44.2%)、「区内に花や緑を増やす」(40.3%)、「区内の環境に関する技術開発をしている企業等を支援する」(32.9%)となっている。



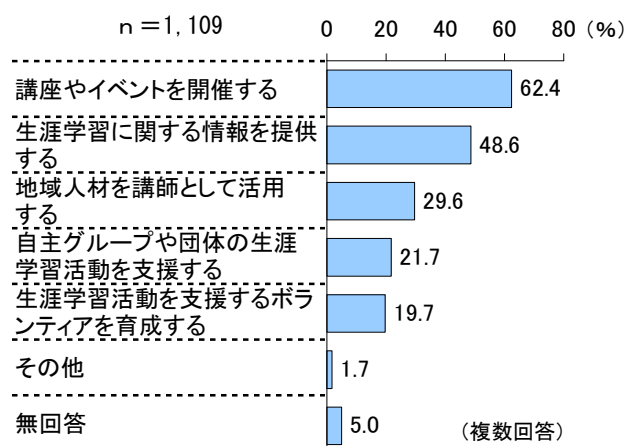
スポーツ振興

「スポーツ施設や気軽に運動できる場所を充実させる」(73.2%)が7割を超えて最も高く、次いで「気軽に参加できるスポーツイベントを開催する」(55.5%)、「有名選手や指導者によるスポーツ教室や講習会を開催する」(32.4%)、「地域のクラブやサークルの活動を活性化させる」(21.1%)となっている。



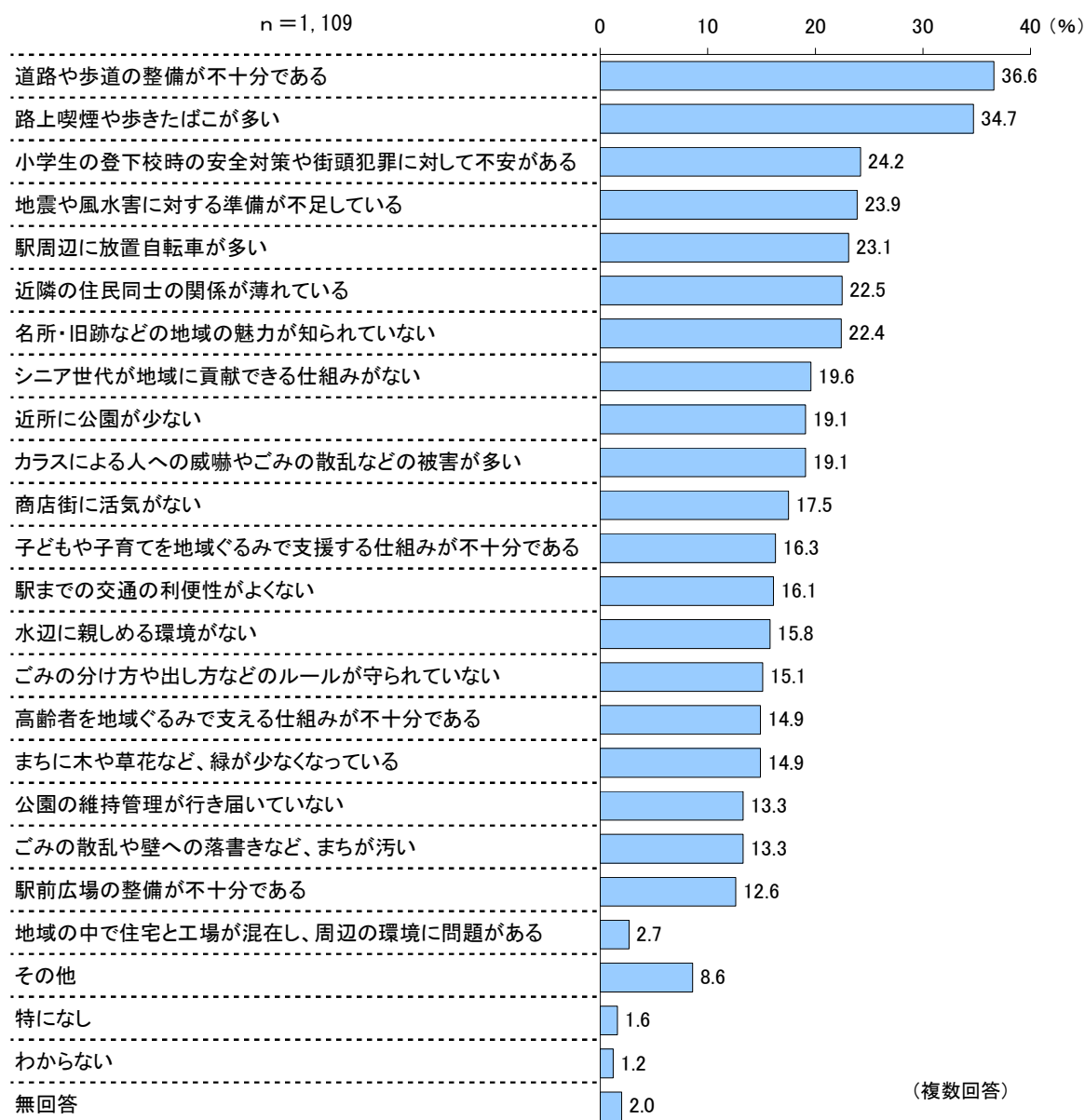
生涯学習の支援や推進

「講座やイベントを開催する」(62.4%)が6割を超えて最も高く、次いで「生涯学習に関する情報を提供する」(48.6%)、「地域人材を講師として活用する」(29.6%)、「自主グループや団体の生涯学習活動を支援する」(21.7%)となっている。



まちの課題・問題点

「道路や歩道の整備が不十分である」(36.6%)が3割半ばを超えて最も高く、次いで「路上喫煙や歩きタバコが多い」(34.7%)、「小学生の登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある」(24.2%)となっている。

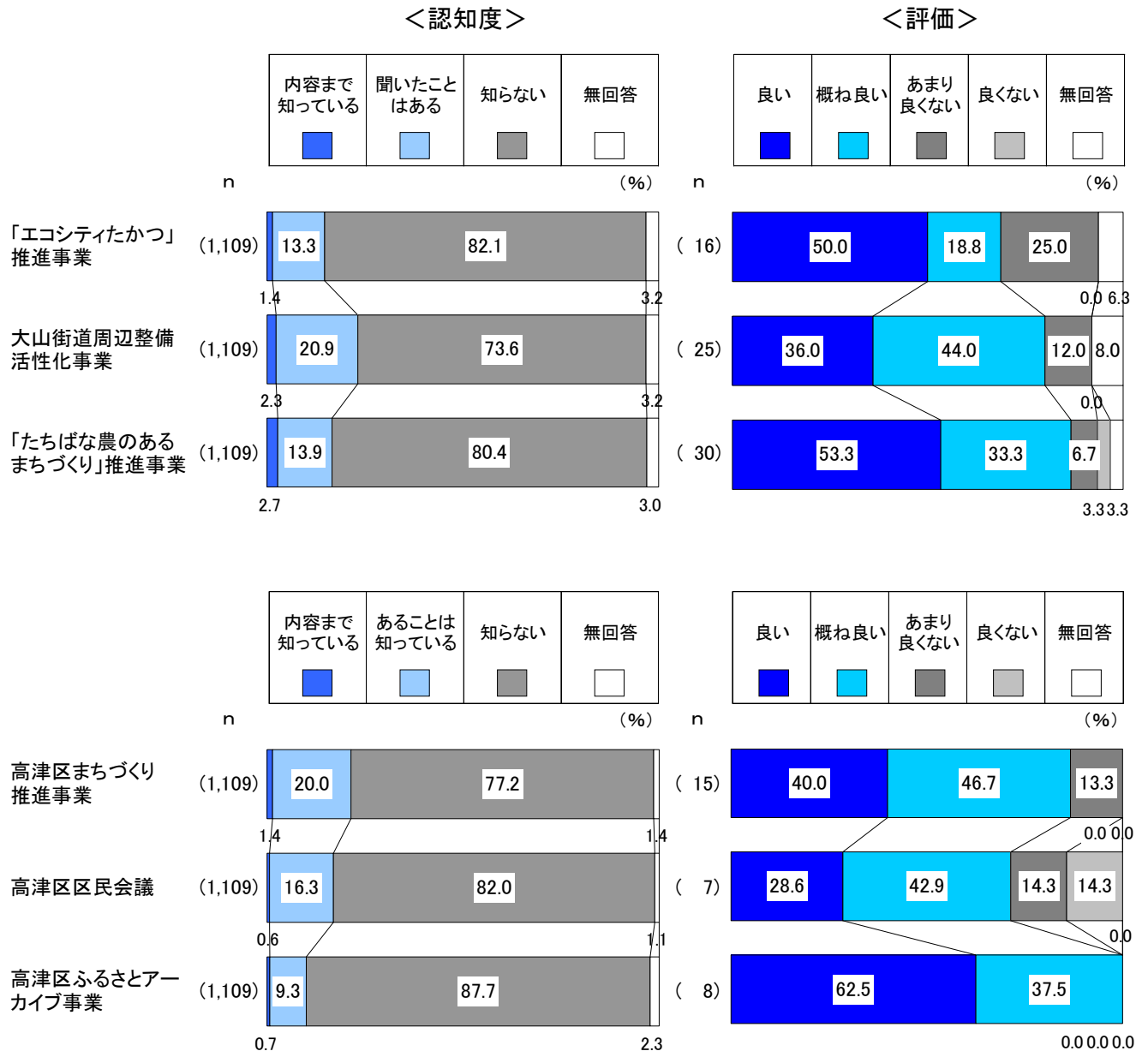


区の事業について

各事業の認知度・評価

<認知度>について、「内容まで知っている」と「聞いたことはある」または「あることは知っている」を合わせてみると【大山街道周辺整備活性化事業】が23.2%で最も高く、次いで【高津区まちづくり推進事業】が21.4%、【高津区区民会議】が17.0%となっている。

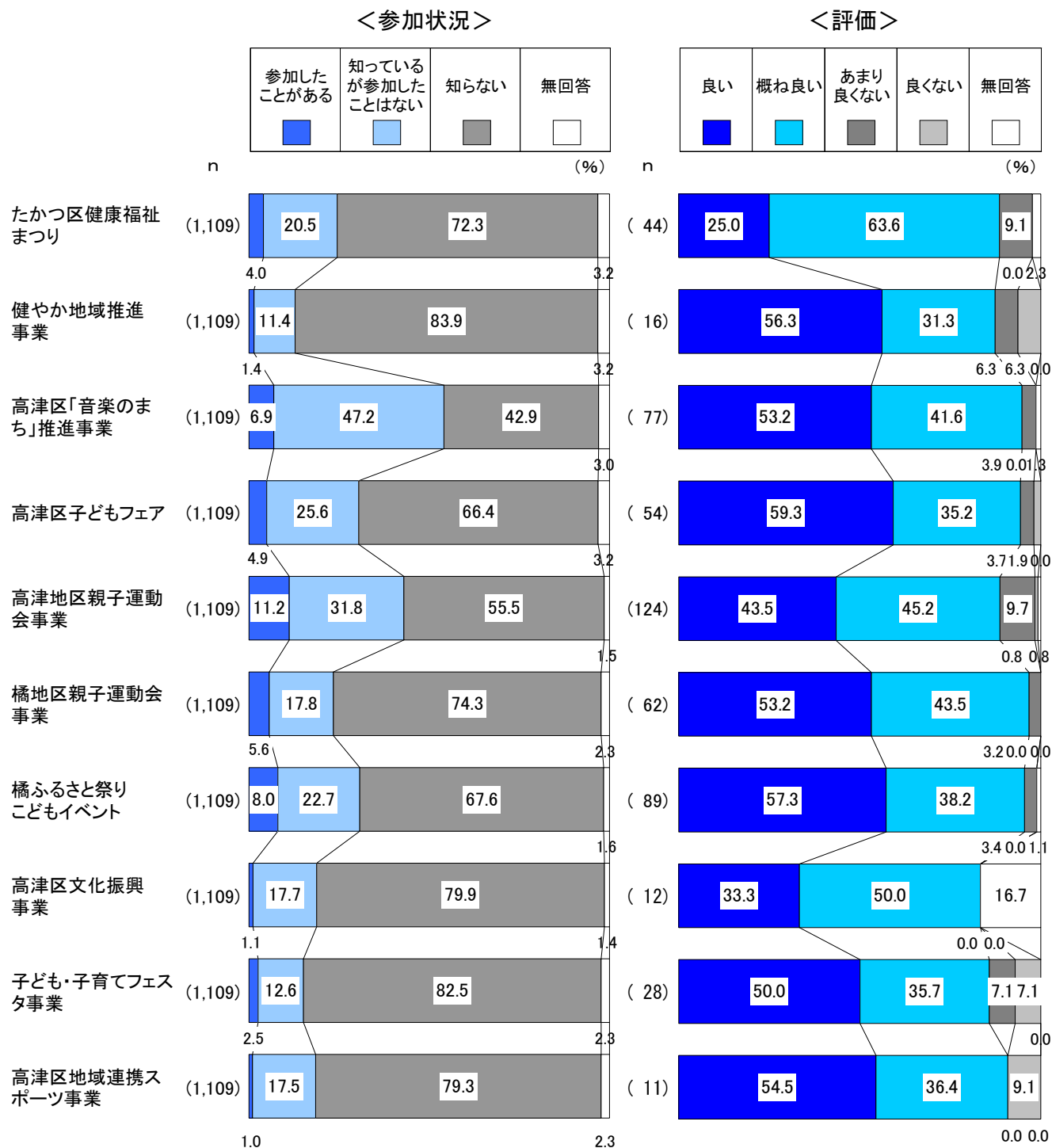
<評価>をみると、「良い」は【高津区ふるさとアーカイブ事業】が62.5%で最も高く、次いで【「たちばな農のあるまちづくり」推進事業】が53.3%、【「エコシティたかつ」推進事業】が50.0%となっている。



各事業への参加状況・評価

＜参加状況＞をみると、「参加したことがある」は【高津地区親子運動会事業】が11.2%で最も高く、次いで【橘ふるさと祭り こどもイベント】が8.0%、【高津区「音楽のまち」推進事業】が6.9%、【橘地区親子運動会事業】が5.6%となっている。

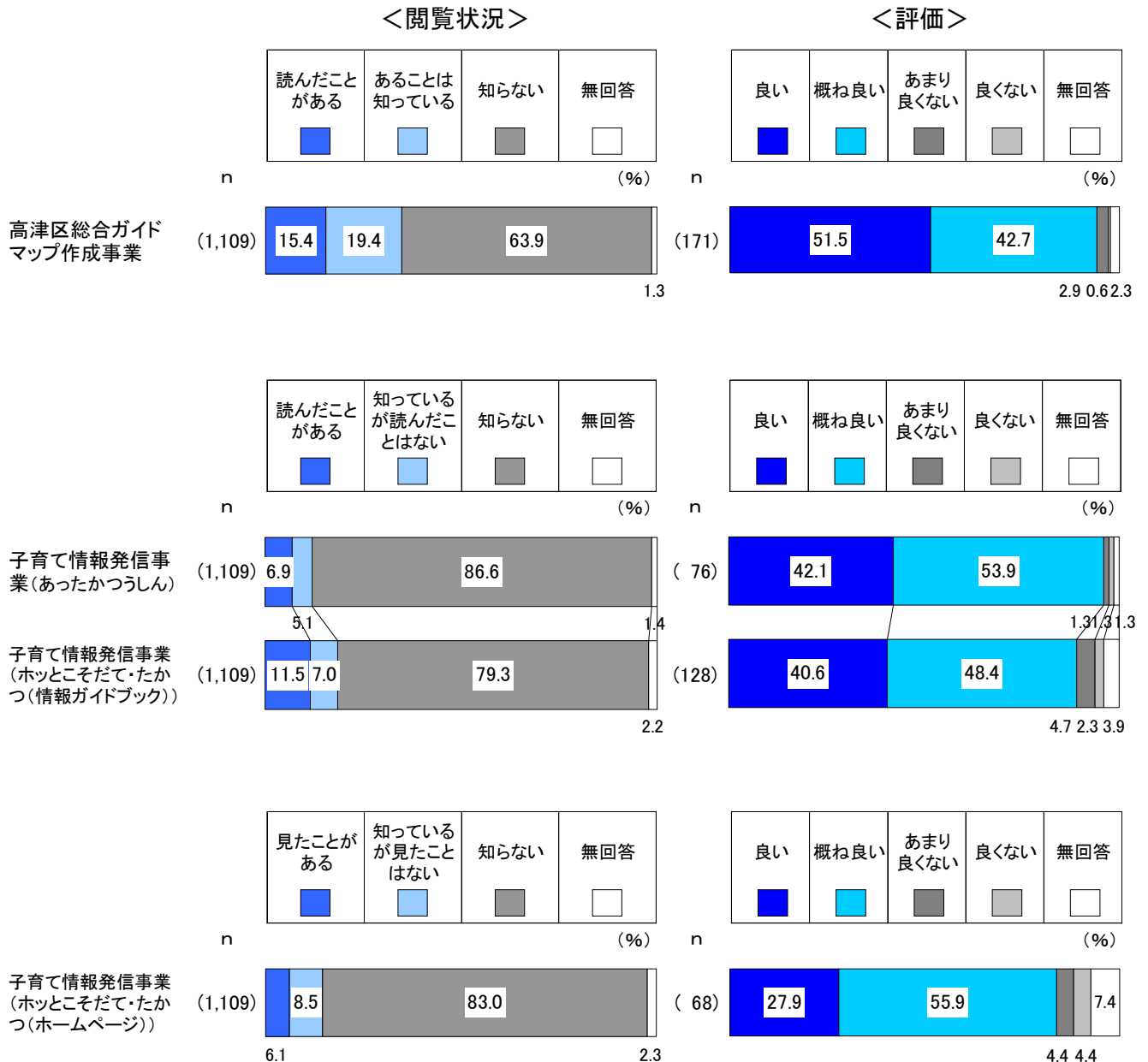
＜評価＞をみると、「良い」は【高津区子どもフェア】が59.3%で最も高く、次いで【橘ふるさと祭り こどもイベント】が57.3%、【健やか地域推進事業】が56.3%、【高津区地域連携スポーツ事業】が54.5%となっている。



各事業の閲覧状況・評価

〈閲覧状況〉をみると、「読んだことがある・見たことがある」は【高津区総合ガイドマップ作成事業】が15.4%で最も高く、次いで【子育て情報発信事業（ホットこそだて・たかつ（情報ガイドブック））】が11.5%、【子育て情報発信事業（あったかつうしん）】が6.9%、【子育て情報発信事業（ホットこそだて・たかつ（ホームページ））】が6.1%となっている。

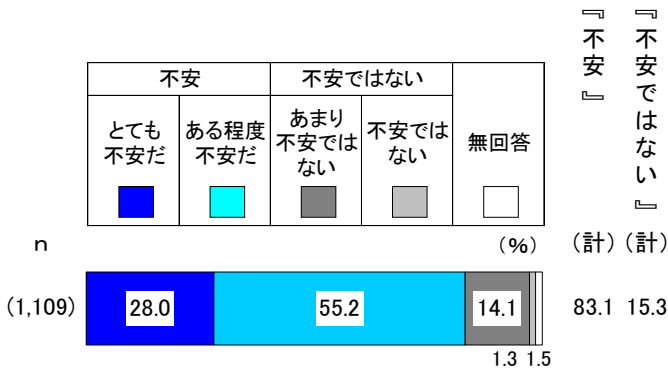
〈評価〉をみると、「良い」は【高津区総合ガイドマップ作成事業】が51.5%で最も高く、次いで【子育て情報発信事業（あったかつうしん）】が42.1%、【子育て情報発信事業（ホットこそだて・たかつ（情報ガイドブック））】が40.6%、【子育て情報発信事業（ホットこそだて・たかつ（ホームページ））】が27.9%となっている。



地域防災について

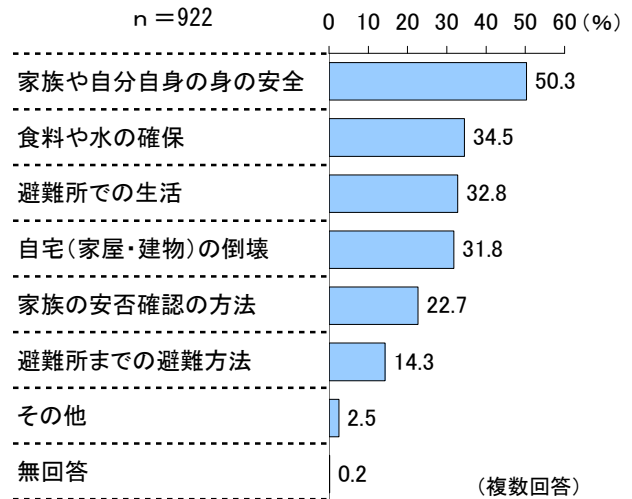
大規模地震発生時の「不安度」

「とても不安だ」(28.0%)と「ある程度不安だ」(55.2%)を合わせた『不安』(83.1%)は8割を超えている。一方、「あまり不安ではない」(14.1%)と「不安ではない」(1.3%)を合わせた『不安ではない』(15.3%)は1割半ばとなっている。



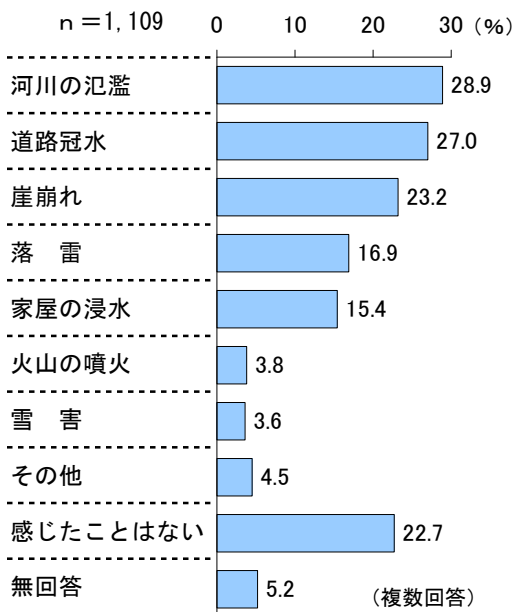
大規模地震発生時の「不安内容」

「家族や自分自身の身の安全」(50.3%)が5割で最も高く、次いで「食料や水の確保」(34.5%)、「避難所での生活」(32.8%)、「自宅(家屋・建物)の倒壊」(31.8%)となっている。



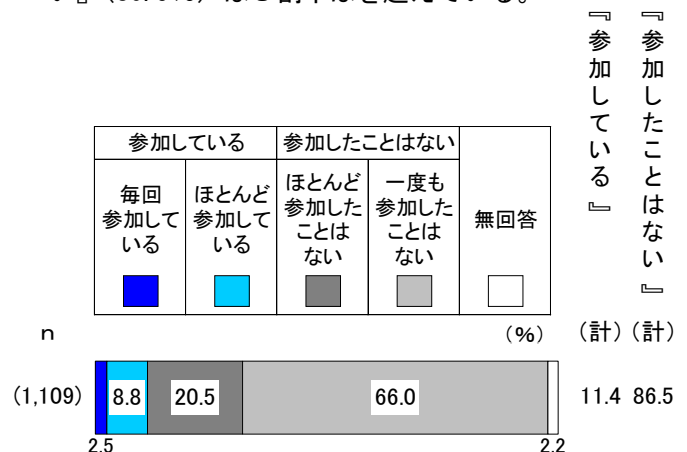
災害に対する不安

「河川の氾濫」(28.9%)が3割近くで最も高く、次いで「道路冠水」(27.0%)、「崖崩れ」(23.2%)、「落雷」(16.9%)となっている。



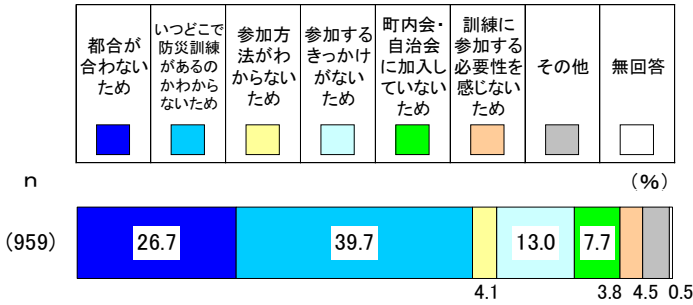
町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無

「毎回参加している」(2.5%)と「ほとんど参加している」(8.8%)を合わせた『参加している』(11.4%)は1割を超えている。一方、「ほとんど参加したことはない」(20.5%)と「一度も参加したことはない」(66.0%)を合わせた『参加したことはない』(86.5%)は8割半ばを超えている。



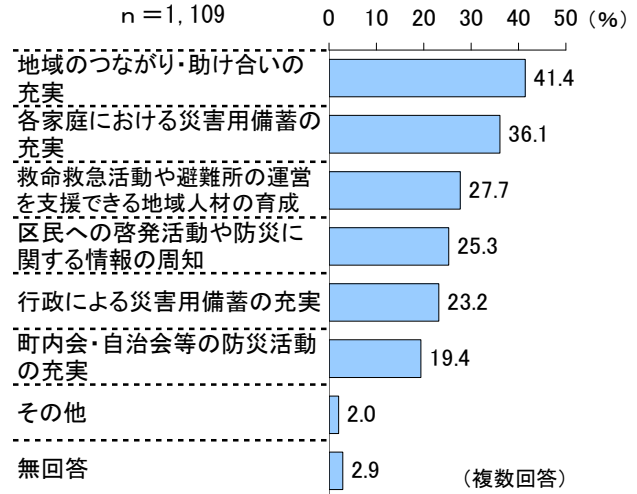
町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由

「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」(39.7%)が約4割で最も高く、次いで「都合が合わないため」(26.7%)、「参加するきっかけがないため」(13.0%)、「町内会・自治会に加入していないため」(7.7%)となっている。



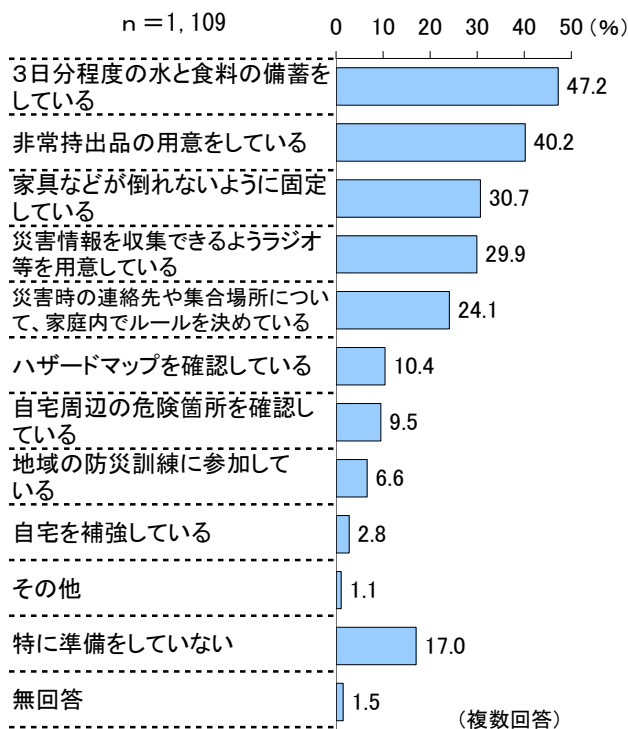
防災力を高めるために必要なこと

「地域のつながり・助け合いの充実」(41.4%)が4割を超えて最も高く、次いで「各家庭における災害用備蓄の充実」(36.1%)、「救命救急活動や避難所の運営を支援できる地域人材の育成」(27.7%)、「区民への啓発活動や防災に関する情報の周知」(25.3%)となっている。



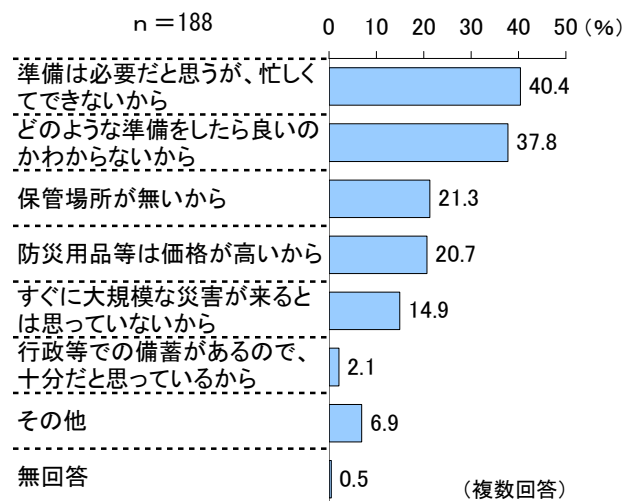
大規模災害発生への備え

「3日分程度の水と食料の備蓄をしている」(47.2%)が5割近くで最も高く、次いで「非常持出品の用意をしている」(40.2%)、「家具などが倒れないように固定している」(30.7%)、「災害情報を収集できるようラジオ等を用意している」(29.9%)となっている。



大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由

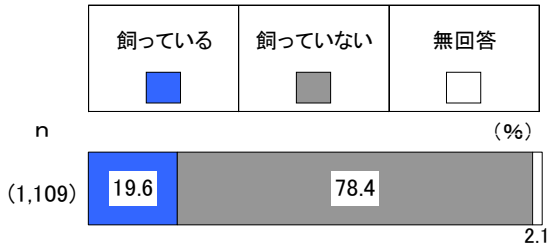
「準備は必要だと思うが、忙しくてできないから」(40.4%)が4割で最も高く、次いで「どのような準備をしたら良いのかわからないから」(37.8%)、「保管場所が無いから」(21.3%)、「防災用品等は価格が高いから」(20.7%)となっている。



ペットの災害対策について

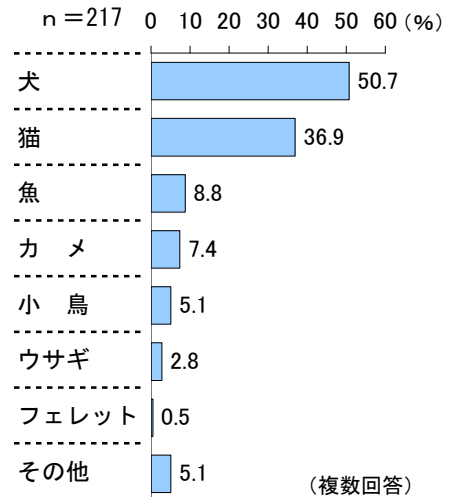
ペットの飼育有無

「飼っている」(19.6%)は約2割、「飼っていない」(78.4%)が8割近くとなっている。



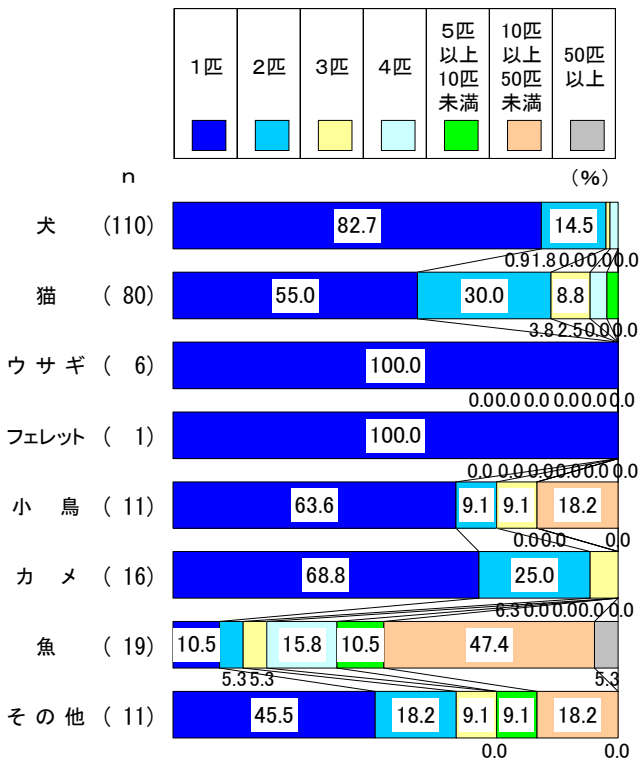
飼っている動物の種類

「犬」(50.7%)が約5割で最も高く、次いで「猫」(36.9%)、「魚」(8.8%)、「カメ」(7.4%)となっている。



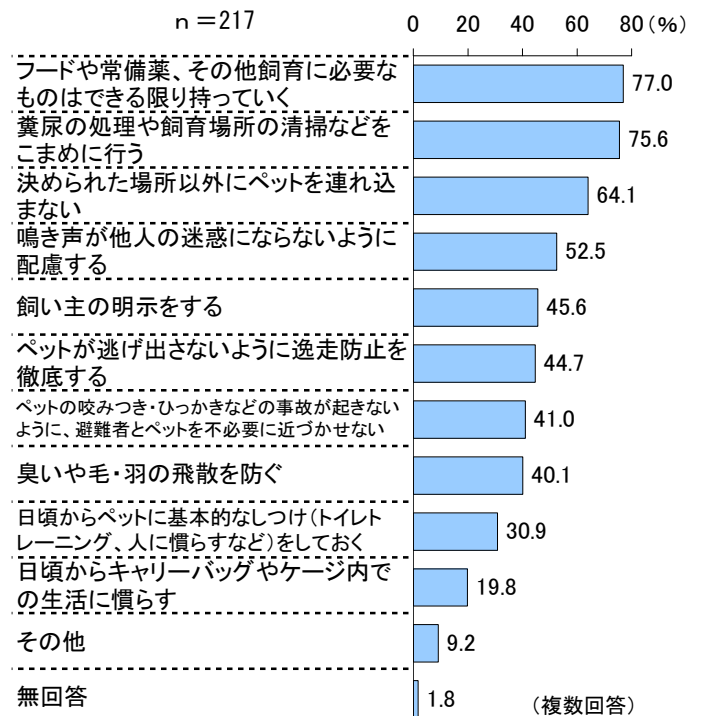
飼っている動物の数

「魚」を除く全ての項目で「1匹」の割合が高くなっている。



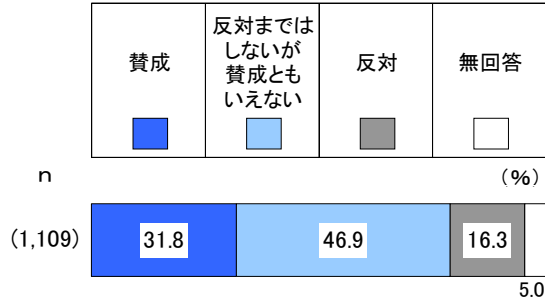
避難所の生活でペットに関して気をつけようと思うこと

「フードや常備薬、その他飼育に必要なものはできる限り持っていく」(77.0%)が最も高く、次いで「糞尿の処理や飼育場所の清掃などをこまめに行う」(75.6%)、「決められた場所以外にペットを連れ込まない」(64.1%)、「鳴き声が他人の迷惑にならないように配慮する」(52.5%)となっている。



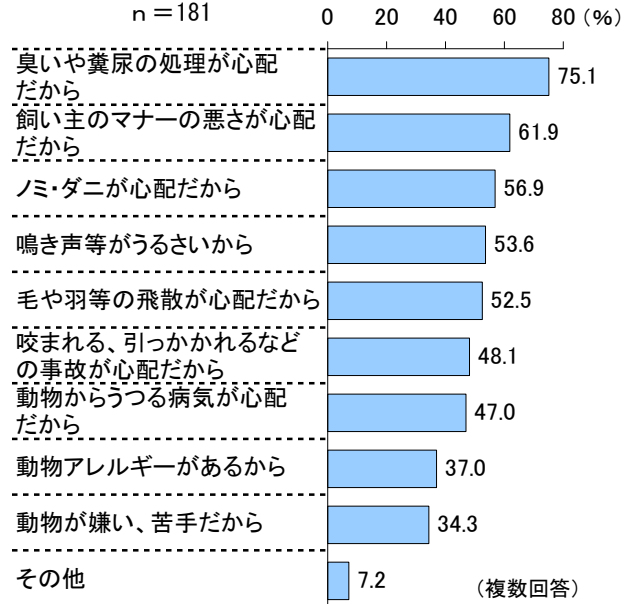
ペットの避難所への受け入れ

「賛成」(31.8%)が3割を超え、「反対」(16.3%)は1割半ばとなっている。また、「反対まではしないが賛成ともいえない」(46.9%)は5割近くとなっている。



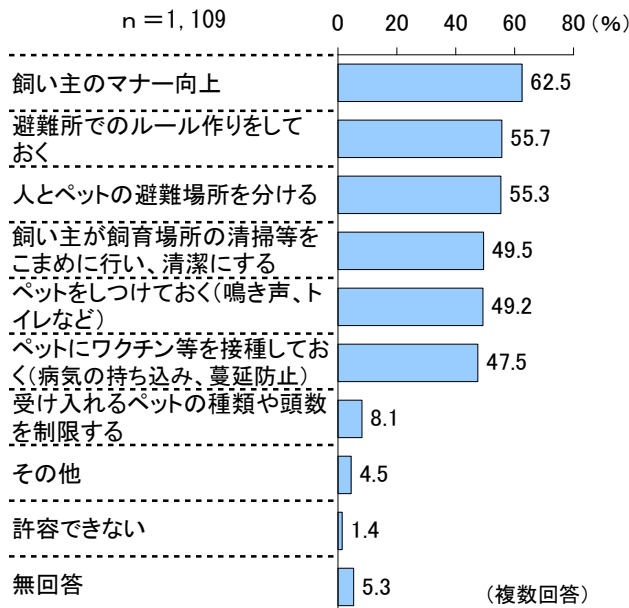
ペットの受け入れに反対する理由

「臭いや糞尿の処理が心配だから」(75.1%)が7割半ばで最も高く、次いで「飼い主のマナーの悪さが心配だから」(61.9%)、「ノミ・ダニが心配だから」(56.9%)、「鳴き声等がうるさいから」(53.6%)となっている。



ペットの受け入れの許容条件

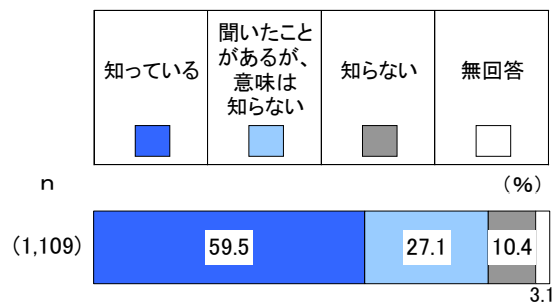
「飼い主のマナー向上」(62.5%)が6割を超えて最も高く、次いで「避難所でのルール作りをしておく」(55.7%)、「人とペットの避難場所を分ける」(55.3%)、「飼い主が飼育場所の清掃等をこまめに行い、清潔にする」(49.5%)となっている。



在宅医療について

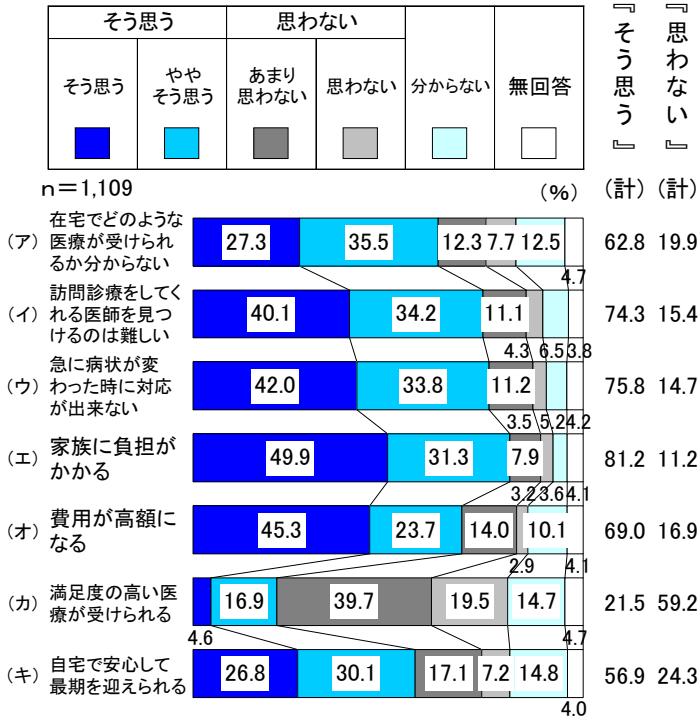
「在宅医療」についての認知度

「知っている」(59.5%)が約6割、「聞いたことがあるが、意味は知らない」(27.1%)は3割近くとなっている。また、「知らない」(10.4%)は1割となっている。



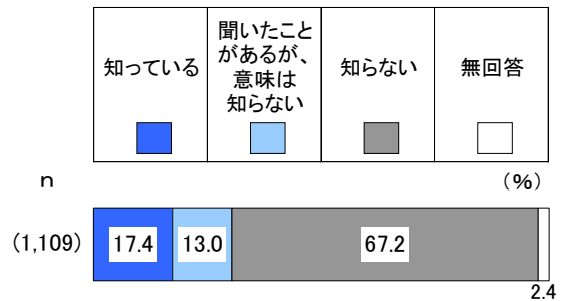
在宅医療に対するイメージ

「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』は、“(エ) 家族に負担がかかる” (81.2%) が8割を超えて最も高くなっている。一方、「あまり思わない」と「思わない」を合わせた『思わない』は、“(カ) 満足度の高い医療が受けられる” (59.2%) が約6割で最も高くなっている。



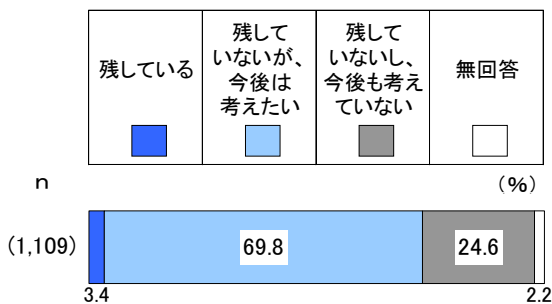
「リビング・ウィル」についての認知度

「知っている」 (17.4%) が2割近く、「聞いたことがあるが、意味は知らない」 (13.0%) は1割を超えている。また、「知らない」 (67.2%) は7割近くとなっている。



万一の事態に備えての希望や伝言

「残している」 (3.4%) はわずかであり、「残していないが、今後は考えたい」 (69.8%) が7割となっている。また、「残していないし、今後も考えていない」 (24.6%) は2割半ばとなっている。



シンポジウムで聞いてみたい内容

「在宅でどのような医療が受けられるのか」 (59.1%) が約6割で最も高く、次いで「在宅医療を利用するための準備」 (46.0%)、「在宅医療を経験した本人や家族の体験談」 (38.9%)、「『リビング・ウィル』について」 (22.7%) となっている。

